新光電気の沿革

1946-1965

人と社会に、新たな光を

戦後まもなく家庭用電球のリサイクルから
始まった新光電気のものづくり。
その後も、新たな時代を見据え、
新たな製品開発に注力し続けた活動は、
現在も続く技術力の源泉となっています。

1946

- 「合資会社長野家庭電器再生所」設立
- 長野家庭電器再生所を改組・改称し「新光電気工業株式会社」設立

1949

- 通信機用電球・2号型ランプの電気通信省（現・NTT（株））への納入開始

1953

- ダイオード用ガラス端子生産開始

1957

- 富士通（株）の資本参加を得て、半導体分野への展開を図る
- 長野市栗田に栗田工場開設

1959

- トランジスタ用ガラス端子生産開始

1960

- 新光電気労働組合を結成

1963

- 長野県更級郡更北村（現・長野市小島田町）に更北工場開設

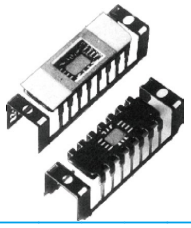
1966-1985

半導体産業の発展を支え、世界へ展開

半導体パッケージングテクノロジーを駆使し、
着実に事業領域を拡大。
この時代から世界へと駆け上がっていきます。

1966

- 当社初のICパッケージ・DIP-10生産開始



1968

- リードフレーム生産開始

1977

- 米国カリフォルニア州にSHINKO ELECTRIC AMERICA, INC.設立

1978

- 新潟県新井市（現・妙高市）に新井工場開設

1979

- ICアセンブリ開始

1980

- 長野県中野市に高丘工場開設

1982

- レーザーダイオード用ガラス端子生産開始

1984

- 東京証券取引所市場第二部に株式を上場

1986-2005

加速するデジタル化の技術課題に応え続ける

より小さく、薄く、軽く
半導体が進化し続けるなかで「お客様が必要なものを実現する」
という DNA を受け継ぎ、市場ニーズに真摯に
向き合ってきました。

1987

- KOREA SHINKO MICROELECTRONICS CO., LTD. 設立

1990

- SHINKO ELECTRONICS(MALAYSIA)SDN. BHD. 設立

1991

- 長野市若穂に若穂開発センター(現・若穂工場)開設

1993

- 新潟県京ヶ瀬村(現・阿賀野市)に京ヶ瀬工場開設

1994

- 「環境憲章」制定(後に「環境方針」に改称)

1995

- PLP(Plastic Laminated Package)生産開始

1996

- 東京証券取引所市場第一部に株式を上場

1998

- 高丘工場が環境管理の国際基準 ISO 14001 認証取得
  以降各工場で認証取得

2002

- 長野市北尾張部(旧・富士通(株)長野工場内)に新光開発センターを開設

2004

- 栗田総合センター(旧・栗田工場)落成披露

2006-2025

新たな時代へ向け、半導体の次なる革新を支える

社会に変革をもたらす半導体テクノロジー 新光電気は、
「世界最高レベルのものづくりと技術力」を追求し、
次のイノベーションを生み出すことに
挑戦し続けていきます。

2010

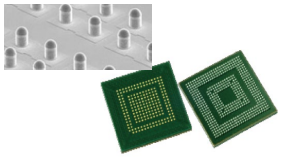
- SHINKO Way 制定
- コアレス基板(DLL3®)量産開始(業界初)

2013

- プラスチック BGA 用薄型基板(コアレス基板)量産開始

2014

- Cu ピラー量産開始
- MCeP® 量産開始



2017

- 「働き方改革」労使共同宣言

2021

- 新光テクノアカデミー開校

2022

- 「環境ビジョン 2050」策定
- 東京証券取引所の市場再編によりプライム市場へ移行

2023

- 長野県千曲市に千曲工場開設

2025

- JICC コンソーシアムを新たなパートナーとして、株式非公開化

さらなる成長に向け新たなステージへ